

## 松濱軒を訪れる人に 心地よいひとときを

茶和の会

真木 文子 さん (古城町)



5月末から6月中旬にかけて、国指定名勝「松濱軒」では白や紫の肥後花 菖蒲が咲きほこる。その庭園では毎年、期間限定で「茶和の会」による抹茶の接待と庭園ガイドが行われ、訪れた人たちを楽しませている。

「木陰で抹茶をいただき、家族や友人とおしゃべりをしながらゆったりと過ごしていただくのが一番うれしい」。そう語るのは、茶和の会の真木文子さん。

茶和の会は平成13年4月に、町おこしにつながるボランティア活動を行うことを目的に発足し、今年で15周年を迎えた。お茶の接待をすることで和やかに癒やしの空間づくりをしたいと「茶和の会」とみんなで決めた。発足時は、有志が知り合いなどに声をかけ、約100人が集まった。主となる活動は、この松濱軒での抹茶の接待と庭園ガイドだ。入会に茶道の経験、流派は不問。おもてなしの心があれば誰もが入会できる。

発足当時、自他ともに認める「世話好き」という真木さんに茶和の会発足メンバーとして声がかかった。以来、世話人4人で話し合い、抹茶接待のローテーションを組んだり、役割分担や準備作業、研

修を行ったりしている。

「肥後花菖蒲は肥後六花の一つ。鉢植えで座敷鑑賞用でしたが、松濱軒のものは特別に地植えが許されたものなんです」と特別な空間でのおもてなしについて語る。

大切にしていることは、訪れた人たちが楽しむことができるような、和やかで気取らない雰囲気づくりだ。笑顔で声かけをするなどして、訪れた人の笑顔も誘うよう心がける。「よかなあ」「とてもゆっくりした」という声は何よりも褒美の言葉になる。「家族で訪れたおじいさんが笑顔で言った『ここで初めて抹茶を飲んだが、うまかなあ〜』と言われた一言が忘れられないですね」と微笑む。

そんな笑顔の裏では気を遣う作業も多くある。特に神経を使うのは火の始末だ。貴重な文化財である松濱軒内であるため、消火の確認作業を何度も行い、念を入れているという。

長く続く茶和の会の活動だが、発足当時約100人いた会員も、高齢化などで50人程度に減少。後継者不足が課題となっており、会員募集や研修会など積極的に行っているところだ。

「よく続いたなという思いとともに、茶和の会の活動がずっと続いていくことが願いです」と語る真木さん。今年の松濱軒での活動は5月27日～6月3日の8日間行う。「松濱軒と肥後花菖蒲とこの季節限定の風情を味わい、心地よいひとときを多くの人に過ごしてほしい」。そんな思いで、会員らと真心こもったおもてなしの準備を進める。



▲3月25日に行われた研修会で説明を行う真木さん(左から4番目)



2015.MAY

No.125

- 3 生ごみ堆肥化容器等設置に助成
- 4 市民と市長とのテーマトーク
- 6 まちづくりを支える 固定資産税
- 8 市内の子育て支援情報
- 10 人権擁護委員は街の相談パートナー
- 11 安心・安全な道路に
- 12 八代市地域公共交通網形成計画策定
- 13 平成27年度 市職員募集 <前期日程>
- 14 暮らしの情報
- 16 市民カレンダー
- 18 暮らしの情報
- 27 広告
- 28 まちのわだい
- 31 伝言板
- 32 ふる郷 愛鏡祭

広報やつしろは、市ホームページでもご覧いただけます。

[トップページ](#) → [総合案内](#) → [広報やつしろ](#)